

令和元年度 第1回さいたま市健康づくり推進協議会 議事概要

◎ 日時

令和元年7月18日（木）午前10時00分～11時30分

◎ 場所

さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

◎ 出席者

《委員》金谷委員、小林委員、近藤委員、鈴木委員、関委員、田村委員、並木委員、松本委員、桃木委員（会長・議長）、渡邊（廣次）委員、渡辺（裕）委員（会長職務代理）

《関係課》緑区保健センター：金子所長、北区保健センター：永井所長補佐、保健所地域保健支援課：武田主幹

《事務局》保健福祉局：青木理事、保健部：佐藤部長、今野副理事、健康増進課：星野課長、橋詰補佐、伴田主査、齋藤主任、中村主事

《傍聴人》なし

◎ 欠席者

《委員》小森委員、土田委員、中村委員

◎ 会議資料

《事前配付》

- ・さいたま市ヘルスプラン21（第2次）概要版（A4カラー・8P冊子）
- ・次第
- ・さいたま市健康づくり推進協議会委員名簿
- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について（A3両面・10P）
- ・資料2 平成30年度ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例（A4両面・73P）
- ・資料3 健康寿命の延伸に係る統計について（A3カラー・1枚）
- ・資料4 ヘルスプラン21（第2次）中間評価概要版（A3カラー・1枚）
- ・資料5 平成28年度および平成30年度プロセス評価表（A4両面・4P）
- ・参考資料1 さいたま市健康づくり推進協議会設置要綱（A4両面・1枚）
- ・参考資料2 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理スケジュール（A4・1枚）

《当日配付》

- ・さいたま市健康づくり推進協議会関係課職員名簿（1枚）
- ・座席表（1枚）
- ・さいたま市アレルギー疾患対応相談のご案内

- ・ヘルスプラン21サポーター通信（18、19号）
- ・さいたま市ヘルスプラン21（第2次）計画書
- ・さいたま市ヘルスプラン21（第2次）中間評価結果報告書
- ・さいたま市健康づくり及び食育についての結果報告書（H28）

1 開会

2 挨拶

3 議事

議事録は、会長に一括で承認いただき、市ホームページ上で議事概要を公開することによろしいか。

委員：異議なし

（1）さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について

①ヘルスプラン21（第2次）とは

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・さいたま市ヘルスプラン21（第2次）概要版
- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について
- ・資料2 平成30年度ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例

②健康寿命の延伸に係るさいたま市の統計について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料3 健康寿命の延伸に係る統計について

【意見、質疑・応答】

桃 木 議 長：以上事務局からの説明をふまえ、委員の全ての皆様にご意見を頂戴したい。金谷委員から願います。

金 谷 委 員：さいたま市の平均寿命について、西区の女性が特に伸びがよいと見受けられる。考えてみると食生活改善推進員の活動が非常に活発であるため、影響しているのではないかと思う。

近 藤 委 員：区民まつりや健康まつりにおいて血圧測定などを行うブースを出展しているが、ヘモグロビンA1cの測定については、非常に賑わっており、市民の関心が高いことが伺える。特定健康診査受診者のリスク保有状況で糖尿病に関してさいたま市は、県内ではリスクが高いことが読み取れるため、健康に関する情報を今後も啓発に努めてまいりたい。

鈴木委員：レクリエーション協会では子どもから高齢者まで参加できるような取組を続けている。健康寿命にかかわってくる部分として、老人ホームでは健康体力づくり、介護予防運動を実施しているが、参加者が女性ばかりである点が課題となっている。今後は男性の方々に興味を持ってもらえるよう、ボールや新聞紙など身近なものを利用した「ニュースポーツ」について重点的に取組んでいきたい。

関委員：「健康寿命の延伸に係るさいたま市の統計」の平均寿命に関して、各区に分かれたデータがありその特徴が確認できるのは良いと思うが、健康寿命や介護が必要となった要因などの他のデータにおいても、各区ごとの傾向が確認できるようになればよりよいと考える。

さいたま市の介護認定率が低下した理由について介護予防の効果が考えられるとの話があったが、具体的にお話を伺いたい。

事務局：高齢介護課で実施している「いきいき百歳体操」が一部の区で始まった頃である。また、地域包括支援センターがこれまで継続的に取組んできている成果が出始めたことによるものと考えている。

松本委員：データからわかるとおり岩槻区の高齢化が進んでおり、また、唯一人口が減少している状況にある。自治会では様々な意見が出ており、小学校が減っていくといった状態であることから、現行の都市計画の見直しを含めた長期的かつ全体的な対策が必要と考えている。

健康づくりに関しては自主的にサークル活動として「ロコモ体操」や「ラジオ体操」に取り組んでいる。私の参加しているところでは1日70名ほど活動しており、市内で広がっている。熱心な団体では年間15,400名ほど参加しているという数字も挙がっている。参加者の声からは非常に効果的であることが把握できる。大宮区の自治会連合会では、熱心に取り組んでいるリーダーを表彰し、取組をより進めていくこととしている。

渡邊（廣）委員：高齢化の数値を見ると浦和区は南区に続いて低い数字となっているが、これはマンションの建設ラッシュの影響と考えている。マンションには若い世代の流入と同時に単身高齢者が入居するパターンも多く、民生委員の立場から考えるとオートロックのマンションは各種調査を実施する際に非常にやりづらい部分がある。

平均寿命に関して、栄養の話はもちろん重要であるが、ストレスの要素が大きいという話を聞いた。地震や洪水の天災もストレスとなっており、比較的地盤が安定している浦和区の平均寿命が高い理由の一因なのではないかと考えている。

女性の関節疾患が多い点について、「いきいき百歳体操」は非常に重要と考える。包括支援センターと連携して取り組んでいる「元気アップサロン」や社会福祉協議会で開催している「おしゃべりサロン」を広めていくことで、健康づくりに寄与できるものと考えている。社会福祉協議会とのコラボは非常に効果的と考えているので、一層の連携を深めていくべきである。

渡辺（裕）委員：歯科医師会は大宮、与野、浦和の各歯科医師会の取組がバラバラに進められているという課題がある。小学生のDMF歯数（一人当たりのう蝕経験歯数）がさいたま

市は1.0以下が多いが、桜区と岩槻区については数値が悪いので、フッ素塗布等々の取組を進める必要がある。各区の隔たりが大きいので、歯科医師会の取組においても意識していく。

小林委員：標準化死亡比における男性の自殺の悪化傾向について、理由の分析が重要であるが、こころの要因があると察している。商工会議所ではメンタルヘルス検定を市民や企業の方に受験してもらっているところであるが、年々受検者は増加している。今後も取組を通じて少しでも悪化傾向に歯止めをかけられるようにしていきたい。男性の生活習慣病、肥満については食生活が重要と考えており、市内飲食店の方々と、減塩・適塩の商品開発事業に力を入れている。示されているデータを活用し仕組みづくりや動機づくりを進めていきたい。

田村委員：健康管理士として県内で講演活動を行っているが、さいたま市においてはそういった機会が少ないように見受けられる。転倒や熱中症などの日常生活に関わる内容については、一般の市民にフィードバックする機会を増やすことが必要であると考え。また、ヘルスプラン21（第2次）において認知症についての記載がない点が気になる。すでに認知症について他部署で取組はしているかもしれないが、ヘルスプラン21（第2次）の内容は、認知症にも関係する部分が多いと思われる。

並木委員：男性の肥満、検診の受診率このあたりに改善の余地があると思われる。愛育会は子育ての分野の関わりが中心であるが、地域の受診率を上げる活動を地道に続けていくことが必要であるため、愛育会としても力を入れていきたい。

桃木議長：各委員から貴重な意見をいただいた。話に出ていたとおり、市民検診の受診率が低い。各委員の所属する団体においても早期診断・早期治療につながる受診率の向上について協力していただきたい。糖尿病の指標に関して、糖尿病重症化予防事業を県や市を交えた形で実施しているところである。レセプトデータや検診結果を活用し、受診勧奨や保健指導を行うなどの取組をしている。継続受診が必要な方に受診勧奨を行っているにもかかわらず8割程度の方は受診せず糖尿病の悪化につながっているため、地域や家庭レベルにおいても受診を促していくことが必要であると考え。

意見の出た認知症について、さいたま市では物忘れ検診を行っているが、こちらも受診率が低い。これは周知が少ない部分もあると思われるので、改めて周知をしていきたい。各疾患との関連がある認知症であるが、特に睡眠との関連が強く、アミロイドβという認知症に影響を与える物質を減少させる効果があるとされており、睡眠の状況については把握する必要がある。

女性の転倒や骨折についてはフレイルの状態との関連が強く、振り向くときに転倒することが多いことがわかっている。フレイルを予防する体操が非常に大切であると考え。

その他、意見や質問はあるか。

事務局：認知症の関係で補足をする。さいたま市では高齢者保健福祉計画があり、その中で

認知症は非常に大きなテーマとして扱っている。ヘルスプラン21が策定された平成15年頃には認知症について現在のような注目をされていなかったこともあり、盛り込まれていなかったものと思われる。しかし、市として統一感を持って取り組むことは必要であると考えている。

また、介護の認定率が下がった要因について、介護予防の効果は一つの要素ではあるとは考えられるが、介護予防とは捉えていなくとも市民の方々の健康意識の向上といった広義の介護予防の効果といえるのではないか。さらに、介護が必要になった要因の多くを占める脳血管障害については、死亡率の低下やリハビリテーションが非常に有効になってきた点も認定率の低下に寄与していると思われる。

③ヘルスプラン21（第2次）中間評価の結果および現在の取組状況について
事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料4 ヘルスプラン21（第2次）中間評価概要版
- ・参考資料2 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理スケジュール

※質疑応答なし

④プロセス評価の結果について
事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料5 平成28年度および平成30年度プロセス評価表

※質疑応答なし

（2）その他

事務局：3点ある。1点目は、さいたま市ヘルスプランサポーター通信について、18,19号が完成した。市民の健康づくりを紹介するものとなっている。

2点目は、アレルギー疾患対応相談について、今年6月から18歳未満の方と保護者を対象に開始した。相談は小児アレルギーエデュケーター看護師が受けるものとなっている。

3点目は、次回協議会について、令和2年1月中旬を予定している。

松本委員：認知症に関連して、自宅に帰れなくなるといった事件が増えており、地域住人が声をかけて解決を図ろうとすることも多い。最終的には警察に通報して対応することとなるが、警察から事後報告がなく、自治会としては善意の通報をしているのにフィードバックがないのはいかなものかという意見が出ており、個人情報の問題もあり詳しいことまでは言えないのはわかるが、解決したといった一言は必要である

と市と警察署に要望している。

また、民生委員に関しては単身高齢者に特に気を配りながら活動しているところであるが、救急搬送されたといった話を聞いた際に、救急に搬送先を聞いても個人情報なので伝えられないと対応されることがある。これについては、消防局と福祉部と話を詰めており、民生委員法に基づく守秘義務があるため、その点を踏まえた対応を依頼しているところである。

桃 木 議 長：先ほど小林委員より食品の塩分に関する話があったが、カロリーの表示についても考えてもらいたい。若い世代からカロリーに関して意識して生活することで、将来の健康づくりに良い影響を与えるものと考える。

4 閉会